



きらきら



みどりこども園 令和8年9月 文責：古賀

朝夕の風に少しずつ秋の気配が感じられる季節となりました。夏の間水や泥、太陽の光を全身で浴びて遊んだ子どもたちは、心も体もひと回りたくましくなったように感じられます。

先月号では、みどりこども園が目指す姿とともに、結果の出来・不出来ではなく「子どもの声に応答的に寄り添うプロセス」を大切にする保育方針をお伝えしました。今月は、その実践として0～2歳児（未満児クラス）の日々の遊びから見えてきた、豊かな「育ちの芽生え」をお伝えいたします。

【遊びの中で育ち合う子どもたち ～未満児クラス～】

■ 安心感から広がる探索と人への関心（もも組）

氷の冷たさに手をグーパーさせて伝えたり、クレヨンで色がつく不思議さを味わったり。一人ひとりの生活リズムに保育者が応答的に寄り添う安心感の中で、子どもたちは伸び伸びと探索を楽しみます。その安心感を土台に、新しいお友だちを覗き込んで玩具を手渡そうとするなど、人と心を通わせる温かい一歩が生まれています。

■ 実体験の感動が「表現」へとつながる（たんぽぽ組）

虫かごのカニをじっくり観察して横歩きを真似たり、絵本を見て「おんなじ！」と嬉しそうに知らせてくれたり。本物に触れたワクワクが、手を使ったダイナミックな絵の具遊びへと自然に広がっていきます。「やってみたい」という心の動きを受け止めることで、豊かな感性と表現する喜びが育まれています。

■ 試行錯誤を楽しみ、仲間と世界を深める（ちゅうりっぷ組）

水遊びで「どうすればすくえるかな？」と道具を工夫して試したり、粘土をお団子に見立てて「どうぞ」と言葉を交わしたり。園庭ではセミを追う以上児さんに憧れて追いかける姿も見られます。自分であそびを選び、工夫してやり遂げる面白さが、他者への関心や協同する力へとつながっています。

「上手にできたか」という結果ではなく、「心がどう動き、どう試行錯誤したか」。乳幼児期に五感をたっぷり使って夢

中になり、想いを受け止めてもらった経験こそが、生涯にわたる自己肯定感の根っこになります。

来月は、仲間とあそびを深める以上児クラスの姿をお届けします。

3日	木	うんどうあそび
10日	木	うんどうあそび
11日	金	みそ作り体験（5歳児）
15日	火	祖父母参観日（3～5歳児）
17日	木	祖父母参観日（0～2歳児）
17日	木	うんどうあそび
18日	金	えいごあそび
24日	木	うんどうあそび
25日	金	避難訓練

【10月の主な行事予定】

10月 7日（水）内科健診
10月 14日（水）歯科健診
10月 21日（水）電車の旅（年長児）
10月 21日（水）お弁当の日（全園児）
10月 31日（土）うんどうフェス

会場：みどりこども園園庭

